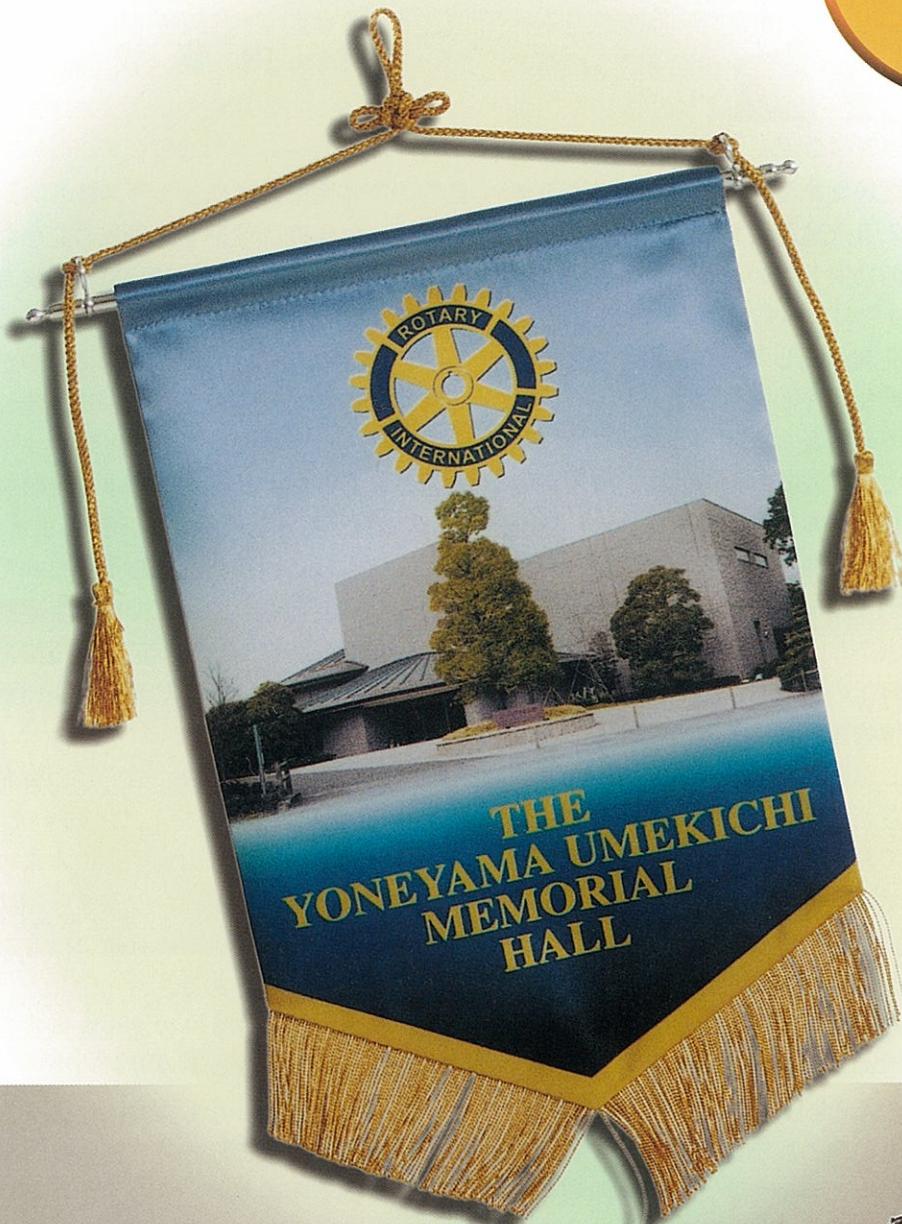


米山梅吉記念館 館報

2003
(平成15年)

秋

Vol. 2



財団法人 米山梅吉記念館





館報第2号発行に際して

理事長 内藤成雄

異常気象の続いた冷夏が、ようやく夏を取り戻そうとするような猛暑が数日続いています。日頃米山記念館に対しての御協力、ありがとうございます。

館報第2号発刊に際して、ごあいさつと現況報告を申し上げます。

おかげさまで地区及び全国のロータリアンに勇気づけられて順調な運営を続けております。殊に昨02年度のビチャイ・ラタクリRI会長の公式訪問以降、館の重みが増したような昨今です。

02~03年度（7/1~6/30）の御来館者及びクラブ数は資料①の通りです。一般の入館者もかなりあり、博物館的性格もおびてきました。

組織は独立した財団法人で、理事長、常務理事以下全国から選出された理事15名、評議員35名で構成されております。この外に館の所在地であるRI2620地区（静岡・山梨）に「米山梅吉記念館委員会」をもち、委員3名、その下にガバナー委嘱の運営委員25名が各小委員会に配属されて運営の実働隊として活動しております。

事業の主なものは恒例の春（4月、米山翁忌）秋（9月、館創立記念日）の例祭がありますが、何といっても米山翁の展示館ですから、その来館者への接待、解説が主です。その外館報の発行、ホールの開放、展示品の整備など多忙の日程をこなしております。資料② 以上順調な現況の報告ですが、悩みはやはり運営費、事業費調達のことです。固定収入は地区(2620.2590.2780)及び米山記念奨学会からの助成金で、ほかは賛助会費、スマイル、地区内クラブ周年行事等の寄附、全国ロータリアン1人年間100円の募金運

動等の不特定財源に頼るより外致し方がない現状です。来年度は館創立35周年の記念の年で、その準備も始めていますが、やはり資金捻出に苦慮しています。そもそも財団法人というのは自体の財源の利息によって運営するのがたて前ですが、それが殆んど望めない日本預貯金制度の悩みを当館も真向から浴びています。

去る8月23日、館恒例の理事、評議員会が開かれ、全国から遠路役員の方々が集まりました。その際にも以上の窮状を申し上げたのですが、その際、賛助会制度にせよ100円募金運動にせよ館の積極的な呼びかけが不足で、全国にその趣旨が徹底していないと逆にお叱りをいただきました。

更にその際、誠に有難い前向きの御発言を頂きました。その主なものを1.2紹介いたします。

1. 米山記念館は米山翁顕彰の本来の使命を更に進めて、日本のロータリー創建に貢献された多くの大先輩の業績に陽をあてる企画を図るべきである。

2. 日本のロータリーの歴史を調査し、文献を集める日本ロータリー史のメカとする方向性をもたせるべきである。

3. 館展観の米山梅吉著作群のうち絶版書が多く閲覧不備なので、今米山精神を学べるいくつかの著作を復刻すべきだ。

以上、誠に同感貴重な御提言に勇気づけられました。

米山先生の著書といえば、最初の著書は、「提督彼理（ペルリ）」です。20歳で渡米、29歳で帰国時、米国で先生は執筆し携えてきた本です。

米山先生は渡米中これらペルリ提督の米政府

への復命著（前編）及びグリフィス博士の「彼理伝」などを読み、驚き又感激し、己れを知るためには相手を知らざるべからずと懸命に書いた警世の書だと思います。

今年（2003）はペルリ提督来航150年。国内外で色々な記念行事が行われています。しかし明治29年に米山梅吉が、この書を書いたことなど殆んど知られていないと思います。又私自身、米山先生がその後の歩いたみちを辿ってみても、どのような動機でこのような本を書いたのか不思議な気がしておりました。

たまたま貴重な資料がペルリ提督150年記念として岩波文庫から「ペルリ提督、日本遠征記」全4巻（土屋喬雄、玉城肇訳）が重版刊行されました。早速購入して読み、驚きました。米山先生がアメリカで読んだ原著の全翻訳です。序章では鎖国で情報非公開もあらばこそ、当時の日本の政治、経済、民族、宗教、ポルトガル、オランダ、イギリス、ロシアの交流史外詳細に

調べ尽くした日本研究史、更に各章はペルリ艦隊が喜望峰、セイロン、シンガポール、香港、広東、マカオ、上海、琉球、小笠原、江戸と息もつかせぬ実話のもりこまれた長篇、大スペクタクルです。この本は昭和20年初版、昭和28年ペルリ来航100年にも重版されているそうですが、不明にして今回始めてその全翻訳文に接し、改めて米山先生がこれは俺が書いて日本に知らせなくてはの思い、先生がこの書を勝海舟のところに持ち込んだ思いも、今、分るような気がしているところです。米山先生のこの本は今日本では殆んど知られていないようですが、今、米山先生日本に再登場のようなつもりで、全国のロータリアンに知って頂くことも、当記念館の役目であるように思います。

館報第2号をお届けします。館からの精一杯の情報発信です。御来館をお待ちすると共に全国のロータリアンからの御意見、御返信、御後援をおまちしております。（平15.8.25）



平成15年 理事会・評議員会報告

常務理事 伊藤文平

平成15年8月23日、恒例の理事会・評議員会が開催された。冷夏一転、猛暑の米山記念館に定刻理事、評議員が続々集結した。

本年は役員改選年なので先ず評議員会、その席で新理事（平15.9~平17.8月任期）が決定した。議長に高崎博次PG。活発な意見が時間ぎりぎりまで続いた。

続いての理事会で評議員が決定し、理事の互選で理事長に内藤成雄、常務理事に伊藤文平の再任が決定した。

選任された新理事、及び評議員は別表の通りです。

前年度決算の承認、新年度予算、事業案も提案通り承認された。主な意見は予算が賛助会費、全国の会員に100円募金等、不特定な要素に頼る不備を定例化する方策について工夫すべし。事業も常設の展示から企画展への展開、日本ロータリー史の記録収集等に目標をおくべし、米山翁の名著の復刻事業に視点を高めるべき…など、将来指向の視野での御意見をいただいた。

直ちに予算面で実現できることではないが、外にあって記念館に寄せる期待の大きいことをうかがえた貴重な会議であった。

春季例祭

去る4月29日(火)祝日(みどりの日)に恒例の春季例祭が、多数のご来賓を迎えて行なわれました。

ロータリーの友委員長 中山義之氏による記念講演、アトラクションではチェンバロとフルート演奏会を行なわれました。



内藤理事長のごあいさつ



中山ロータリの友委員長 米山 治 氏(梅吉翁・孫)



チェンバロとフルート—やすらぎの響き



「米山翁の求めたもの」講師 中山委員長



米山翁の墓参



春季例祭

● 記念講演 ●

演題 「ロータリーにかける夢 米山梅吉先生の求めたもの」

講師 ロータリーの友 委員長 中山義之先生 (RI 2590地区PG・横浜南RC)

ロータリーにとって憂慮すること

○会員の継続的減少

- ・日本のロータリアン数の動向

115,811名 (2002年1月) — 111,067名 (2003年1月)

この1年間で4,744名の減少。例えてみれば大阪の地区が4,614名在籍ですので、優に一つの地区が無くなってしまう人数に匹敵する。

- ・日本のロータリークラブ 2,317クラブある中で (2003. 1現在)

会員数 25~21名 149クラブ

20~11名 137クラブ

10名以下 15クラブ

○ロータリーの友の講読

・会員身分保持の為、公式地域雑誌として講読義務があるにもかかわらず、30人在籍クラブでも5部とか3部しか購入していないクラブがある。

・購読料 (半年間1,200円前納) を1年以上滞納しているクラブがある。

こういう現象は、やがて機能喪失クラブとなってしまう要素をはらんでいる。

このことは、経済的困難よりむしろロータリーの基本的な規則が多くの会員によって無視されている。その結果ロータリーの組織に対する信望が低下している。これが原因ではないか。ロータリーのことを良く知らない会員がたくさん入って来ている。そのことによって誤った広報がなされ、ひいては地域社会も誤ったロータリーについての知識をもつに至る。ロータリーが地域社会における指導者として信望を回復することが、日本のロータリーにとって急務と考えます。

そうすると今や日本のロータリアンは、米山梅吉先生が唱導されたロータリーの思想、あるいは実践の在り方に帰っていく、帰趨する必要があるものと思います。

そして、ロータリアンへのロータリー情報の徹底、一般社会の人に対する正確な広報を普及することが必要。それにはロータリーの友をよく読んで、よく活用することに繋がると思います。

○米山梅吉先生の言葉に「例会は人生の道場である」

ロータリークラブの活動は例会を中心に会員の精神的境地が交歓されるという点に基本的特徴をもつ。奉仕の実践の前に、まず奉仕の心をつくるのがロータリークラブのクラブ奉仕であると考えられた。

会員の減少に歯止めが掛からず、なんとか時代に適応しようと、1998、2001年と2回にわたり規定審議会での改革がなされた。結果、会員資格、例会出席規定、職業分類規則の緩和がなされたが、例会出席と職業分類の規則は日本のロータリーが創設以来、二つの柱として掲げてきただけに、国際ロータリーの方向性には驚きと落胆を覚えた。日

本のロータリアンは、これによってロータリーの魅力が回復するとは思っていない。これはあくまでも最低限レベルを示したものと理解すべきと思う。

○米山梅吉先生が考えられていた例会およびクラブとは。

- ・ロータリークラブとはどんなクラブですか？
- ロータリークラブとは、奉仕する人々が集まっているクラブである。
- ・ロータリーの目的は何でしょうか？
- 綱領に唱われている、有益な事業の基礎として奉仕の理想を奨励しこれを育成することです。
- いずれも職業人として。
- ・ロータリーの奉仕の理想とは何でしょうか？
- 相手が必要とする事柄、環境についていつも思いやりの心をもつ、そういう気持ちが奉仕の理想である。
- ・ロータリーの終局の目的とは？
- 人間関係を改善することによって、より良い社会をつくり平和な世界を築く為に貢献することにあります。
- その人間関係の改善の為には、一人ひとりの人間の善意を呼び起こし、奉仕の気持ちを奮い起こす必要があります。
- ロータリーの要らなくなる世の中が終局の目的であります。

例会出席することによって、そこから奉仕の心が育てられる。例会の1時間というのは、楽しみながら訓練を受けるというロータリー独特の集会。

例会なくして交わりなし、出席は心の交わり、出席は喜びの出会い、出席は記録をつくる為でなく、人をつくるため、あなたの出席を喜ぶロータリアンがいる。

ラタクルRI会長が提唱された慈愛とは、相手の価値を認め、大切に思う心です。善意によって支えられた愛の存在が人間を救う、このことを標榜し実践していくロータリアンであれば、同士は多数集まると思います。

善意への努力、お互いに学び、行動に移す研修の場がロータリークラブであります。

※長時間に亘る講演でしたが、紙面の都合上、割愛させていただき、文意を要約させていただきました。
ご了承下さい。

国際ロータリー第2620地区インターラクター来館



第30回インターラクター年次大会が、去る8月2日、3日に三島高校IACのホストで開催され、2日目の研修でインターラクター136名、顧問教師27名、ロータリアン43名、合計206名の訪問を受けた。

伊藤常務理事の歓迎挨拶のあと、学芸員である当館、市川事務局員の2階展示室の案内と説明に、奉仕に燃える生徒達は目を輝かせて聞きいっていた。



記念館資料室はロータリーの宝庫

2680地区 PG 田中毅

先般、評議員会に出席するために米山記念館を訪れました。日にちを間違えて前日に訪問したために、記念館は閑古鳥が鳴いていました。折角来たのだからと、事務局員にお願いして、資料室で古い文献を閲覧させて頂き、半日を過ごしました。

先ず目に入ったのは、日本ロータリー史と年表です。これは、ロータリー日本50年史を編纂した時に原本として記述した資料で、1920年から1970年までの日本ロータリーに関する全ての記録が手書き贋写版の本として、全13巻に纏められており、ポール・ハリスの訪日、関東大震災、日満ロータリー連合会、RI脱退時の記録など、日本ロータリーの歴史を知る上で貴重な文

献です。

日本では見つからなかったので、RIの資料室まで行ってやっと見つけた、リビアン・カーターのThe Meaning of Rotaryの原本を発見したときには、いささか驚きました。その他、戦前の資料や、あまり出回っていない米山梅吉翁の著作や写真なども沢山保存されています。

記念館を訪れた際には是非資料室で、米山梅吉個人にまつわる数多くの資料と共に、日本ロータリー発展の歴史を検証するこれらの資料を、ぜひご覧になって頂きたいと思います。なお、近日中に、米山記念館のホームページを開設するつもりですので、これらの資料をWeb上で順次公開する予定にしています。

米山梅吉記念館と長泉ロータリークラブ

長泉RC 2003-04 会長 加藤精一

長泉ロータリークラブは2003年7月より例会場を米山記念館に移動しました。1985年3月28日(昭和60年)旧米山記念館2階の会議室にチャーチメンバーメンバー22名が集まり、記念館のお膝元のクラブとして、米山梅吉翁の精神を継承することの目的をもって設立されてから19年目のことであります。設立当初、例会場は記念館でとの声もあったようですが、旧記念館はスペース的には会合にはやや手狭であったため、最初の5年間は長泉商工会館で、その後13年間を長泉ショッピングセンターで例会を開催してまいりました。

例会場こそ別の場所に位置していましたが、事あるごとに記念館に集い、米山梅吉翁の軌跡を追い求め、翁を通してロータリーの精神を知ることができる、まさに修行の場所であり、奉仕活動の実践の場でありました。1998年に新館が建設され、米山梅吉翁の精神を継承する場と

して全国のロータリアンに親しまれるようになると、こんどは来館される多くの方々と知り合う機会を得ることができ、好意と友情の輪を広げる場所になりました。

2002年11月国際ロータリー ビチャイラタクル会長の記念館公式訪問を機に、本来の目的である米山翁の精神の継承をするに最適の場は、ここ米山記念館ではないかとの声が聞こえるようになり、また内藤成雄記念館理事長はじめ、伊藤文平常務理事など関係する多くの方々から温かいお誘いのお言葉をいただき、さらに度重なるクラブ内の協議の結果、例会場の移動となったわけです。

長泉ロータリークラブにとって、いわば古巣での例会開催となるわけですが、また同時に原点からの再出発もあります。今後とも初心を忘れる事無く、一学三礼の心を以て米山梅吉翁の精神を継承してゆく所存であります。

文芸

館展示の米山翁の軸解説

○第一句「憂」第四句「留」が同韻ですから、たぶん第一二句は入違っていると思われます。（おみくじの詩左の如し。）

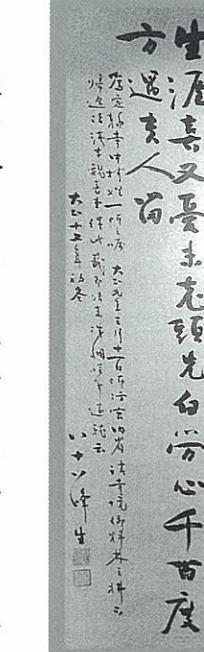
大正十五年初冬 八十八峯生。

未だ老いざるに頭先ず白く、生涯喜び又憂う。心を労すること千百度、まさに貴人の留するに遇わん。の詩左の如し。）

大正十五年初冬。八十八峯生。

完輪寺、中村理一師の願いの為に書く。

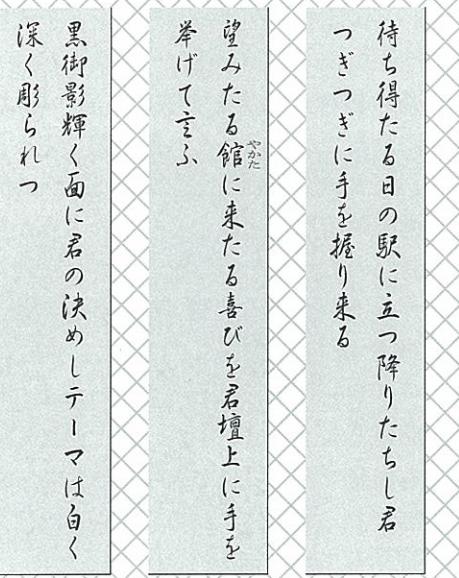
大正九年三月十一日、師が宮内省を訪れて寺院御料林の払下をお願いした。その帰り路に浅草観音に立寄つて右のおみくじを得た。ただちに一筋に誠を尽くす決意をし、事に臨んで遂に成るとしか云う。



短歌

ビチャイ・ラタクル RI会長
米山梅吉記念館公式訪問

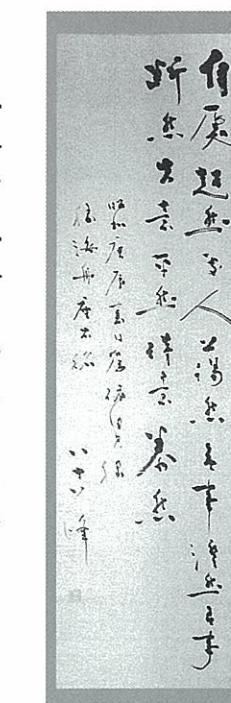
内藤 成雄



自處超然 处人蕩然 無事淡然
有事断然 失意平然 得意泰然

自ら処するに超然たり 人に処するに蕩然たり 無事には淡然たり 有事には断然たり 失意には平然たり 得意には泰然たり。

昭和庚辰（十五年）一九四〇春日。為依田君。録勝
海舟座右銘。八十八峰。



—100円の細い糸が館と全国を結ぶ—

全国1人年間100円募金運動

(財)米山梅吉記念館

引き続き展開中の運動です。初年度は、全国ロータリアンの65%のご支持をいただきましたが、尚趣旨が徹底できなかったためか、今停滞しております。既にご送金いただいた個人、クラブ、地区も相当ありますが、この運動は当分の間、事業費の不足をおぎなうために毎年度継続して行っております。何卒よろしくお願ひいたします。クラブ単位、地区単位でご送金いただく方が便利ですが、勿論個人でも結構です。この運動も任意のご意志によってお願ひしております。

申し込み、振込先 (100円募金)事業資金振込先

郵便振替口座 番号 00820-4-57730

財団法人 米山梅吉記念館

理事長 内藤 成雄
担当理事 住本純八郎

賛助会費御協力のお願い

館運営及び事業費の一部にあてるため、引き続き賛助会員による賛助会費の運動を続けております。会費は、お一人年3,000円（1口）です。

今まで主として2620地区内の会員を対象にしておりましたが、今回の理事会で全国規模に拡大すべきとのご意見が支配的です。勿論強制でなく、自主的なご判断にお任せしますが、何卒よろしくお願いします。個人でもクラブ単位でも結構です。

申し込み、振込先 賛助会費振込先

静岡銀行 下土狩支店 普通 0367598

(財)米山梅吉記念館 理事長 内藤成雄

財団法人 米山梅吉記念館 功労者顕彰規定

（表彰の目的）

第1条 財団法人 米山梅吉記念館は、全国のロータリーの会員並びに、一般の方に対し、記念館に対する功績を顕彰し、記念館発展に寄与するための表彰を行います。

（表彰者）

第4条 表彰は、その大小を問わず理事長表彰とします。

（表彰の時期）

第5条 表彰の時期は、毎年9月の創立記念日とします。

（表彰者の変更）

第6条 表彰を受ける者が、既に死亡しているときは、記念館が適当と認める遺族に対し、賞状及び副賞を授与します。

（表彰の公示と記録）

第7条 表彰が行われた場合は、公示すると共に、表彰ファイルに記録します。

（表彰の方法）

第3条 1. 表彰は、賞状と副賞を贈呈します。
2. 表彰の対象は、個人・グループを問いません。

（施行）

第8条 この規定は平成15年9月1日より施行する。

販売のご案内（書籍・その他）

米山梅吉伝
 米山梅吉物語（和文）
 米山梅吉物語（英文）
 米山梅吉先生語録抄
 藍壺先生と言う人（米山梅吉物語）※
 藍壺覚書
 米山梅吉翁と信託のすゝめ※
 ビデオ（米山梅吉とその生涯）
 拓本
 絵はがき（旧）
 絵はがき（新）
 米山梅吉記念館バナー※
 ロータリーグッズ



※新しく刊行いたしました

米山梅吉記念館のご案内

開館時間
 午前10時～午後5時（但し11月～3月は
 午後4時まで）

休館日

- 月曜日
- 12月28日～1月3日
- 整理のための休館日



来年度は(財)米山梅吉記念館創立35周年を迎えます。記念企画展を開催するに当たり、梅吉翁、記念館に関する文献等を蒐集しております。ご協力お願いします。

米山梅吉記念館報

Vol. 2

発行日 平成15年9月20日
 発行者 財団法人 米山梅吉記念館 理事長 内藤成雄
 TEL (055) 986-2946 FAX (055) 989-5101
 印刷 フタバ印刷株式会社